

# 高知県公立大学法人における高知県立大学と 高知短期大学のこれからについて

## 理事長メッセージ

### 高知県公立大学法人の基本方針について

高知県公立大学法人は、現在及び将来における本法人下の大学のあり方を検討し、高知県立大学の文化学部への拡充及び地域教育研究センター（仮称）の開設によって、高知短期大学がこれまで果たしてきた機能を継承できると考え、高知短期大学の発展的解消を検討することについて理事会に諮り、承認を得ました。

### 高知短期大学の変遷について

高知短期大学は、戦後間もない時期に勉学意欲に燃える勤労青年たちが「働きながら学べる夜間大学を」という請願書を県議会に提出し、全会一致で可決後、昭和28年に開学しました。

昭和28年の高校進学率（43.2%）は、平成22年の大学進学率（43.9%）と同程度であり、当時における短大の役割は、たいへん大きく、県内外で活躍する多くのリーダーを輩出してきました。しかし、半世紀余りの時代を経て、教育の高度化やニーズの多様化などから短大の役割は大きく変化してきました。例えば、昭和50年代には、正規雇用の勤労学生の割合が7割を超えていた年もありましたが、本年度の入学者は約2割となっています。また、4年制大学への編入を希望する学生や検討している学生が6割いることなどが挙げられます。

### 「県立大学改革にかかる永国寺キャンパス検討会報告書」提言について

そのような大学を取り巻く時代の変化のなか、平成22年3月にまとめられた『県立大学改革にかかる永国寺キャンパス検討会報告書』の提言によれば、短大については、「新たな社会科学系学部の設置状況を踏まえて、そのあり方を検討することが適当である。また、新たな社会科学系学部の設置状況を踏まえて、同学部との連携による社会人教育の充実や効率的で柔軟な大学運営の観点から検討すべきである。」とあり、今年度に入り、その新たな社会科学系学部である高知工科大学の新社会科学系学部の構想が明らかになったことから、提言に沿い、あらためて短大のあり方や社会人教育等について検討を開始しました。

## 高知短期大学の発展的解消について

検討にあたっては、県内高校生が地元の大学へ進学する機会の拡大と若者の県外流出の防止、県内産業振興に貢献する人材養成に資する「高等教育の充実」に努め、高知工科大学の社会科学系学部と重複しない分野の文化学系の社会人教育の拡充等を視野に、特に、短大の担っている①社会科学系学部機能②夜間の学び場③社会人教育・生涯学習などをどのように発展させるのかを考え、永国寺キャンパスの「知の拠点」構想に沿い、短大の機能を県立大などに発展継承していくこととしました。

なお、現在の短大は、平成26年4月の入学生までは、これまでどおり受け入れていきますし、その学生が卒業するまでは存続する計画です。

## 高知県立大学の文化学部拡充と地域教育研究センター（仮称）設立について

短大機能の発展継承にあたって、文化学部においては、人文系の科目群に加え、文化創造専修群を「観光と文化」「法と文化」「地域と文化」等に拡充することによって、学びの範囲を拡大し、文化学の視点から地域の活性化や社会の発展に貢献できる人材を育成していきます。また、社会人に門戸を開くため、夜間や土日だけの学士号取得や編入学制度の充実などを通じ、社会人学生への高等教育の充実にも努めていきます。

加えて、地域教育研究センター（仮称）においては、共通教育と社会貢献を充実・強化するため、センター内に「共通教育部会」「生涯学習部会」「キャリア支援部会」「産官学研究部会」「地域課題研究部会」の5つの部会を設け、学生教育だけでなく、地域への貢献にも力を入れていきます。

## 高知県立大学法人の将来について

短大の開学の精神・使命である社会人教育やそのノウハウ等は、県立大の文化学部だけでなく、看護、社会福祉、健康栄養の各学部にも継承していくよう検討しており、特に、大学入試センター試験を必要としない社会人特別入試枠を全学部に設けることができるよう取り組んでいきたいと考えています。

また、これまであった科目等履修制度や公開講座などの充実はもとより、さらに社会人教育や生涯学習の機能の強化も行っていきます。

最後に、高知県立大学法人においては、大学の教育・研究・社会貢献の向上を図りつつ、効率的で柔軟な大学運営に努めていきます。